

抵當權實行ノ場合ニ尙貸借權ノ效力ヲ存續セシムルモノト爲スコトハ實際上必要ナルコトテアリマス唯乍併借權ト雖トモ長期ノモノハ其效力ヲ持續セシムルトキハ抵當權者ノ爲メニ不利益ヲ及ホスコトナリマス例ヘハ抵當不動産ニ對スル貸借權ノ長期ニ失スルトキハ抵當權者ハ其不動産ニ付キ抵當權實行トシテ充分ナル價額ヲ以テ競賣シ得ナイコトナルカラテアリマス故ニ貸借權ノ期間ハ餘リニ長カラサルコトヲ必要トシマス民法ハ之レニ關シテ貸借權ニ關スル第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユヘカラストシテ居リマス即チ樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスルモノハ十年其他ノ土地ノ貸借ハ五年建物ハ三年ヲ超エサル期間ヲ以テ定メタル貸借ハ抵當權設定登記後ノ登記ニカルルモノト雖トモ之レヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ルノテアリマス故ニ競賣ノ場合ニモ其貸借權ハ消滅シナイノテアリマス乍併右ノ如キ短期ノ貸借權ナルノ故ヲ以テ常ニ抵當權者ニ對抗シ得ルモノトスルトキハ抵當權者ニ損害ヲ與フル場合カアリマス例ヘハ前ニ述ヘタルカ如キ期間ノ賃料ヲ前拂ヒシタル場合ノ如キニ於テハ競賣ノ結果不動産ヲ取得シタル者ハ大ナル負擔付キノ土地ヲ取得シタルコトト

ナリテ其損失ハ決シテ妙クナイノテアリマス故ニ斯クノ如キ場合ニハ抵當權者ハ抵當權ノ實行ヲ爲サントスルモ其實行ヲ爲シ得サル状態トナリマス要スルニ此種ノ貸借ハ抵當權者ニ損害ヲ及ホスコトナリマスカラ抵當權者ハ裁判所ニ請求シテ貸借權ノ解除ヲ求ムルコトヲ得ルノテアリマス如何ナル貸借權カ抵當權者ニ損害ヲ及ホスヤハ事實上ノ問題テアリマシテ前述ノ如キ賃料前拂ノ貸借カ常ニ必スシモ損害ヲ及ホスモノト解スルコトハ出來マセン唯期間目的物トノ關係ヨリシテ抵當權者ニ損害ヲ及ホスヘキモノト認メラルル場合カアリ得ルノテアリマス而シテ右述ヘタル解除ノ請求ハ裁判所ニ對シテナスヘキモノテアリマシテ判決ノ確定ニ依リテ解除ノ效果ヲ生スルノテアリマス

第三節 抵當權ノ消滅

抵當權ノ消滅原因ニ付テハ一般ノ物權ノ消滅原因ノ應用セラルヘキコトハ言フヲ俟タサル所テアリマス例ヘハ物ノ滅失抵當權ノ拋棄混同等ノ如キテアリマス抵當權ノ消滅ニ付キ民法カ特ニ規定シタルモノハ時効地上權又ハ永小作權ノ目的トナシタル場合ノ二ツテアリマス

物權法 (第七章以下) 本論 抵當權 抵當權ノ消滅

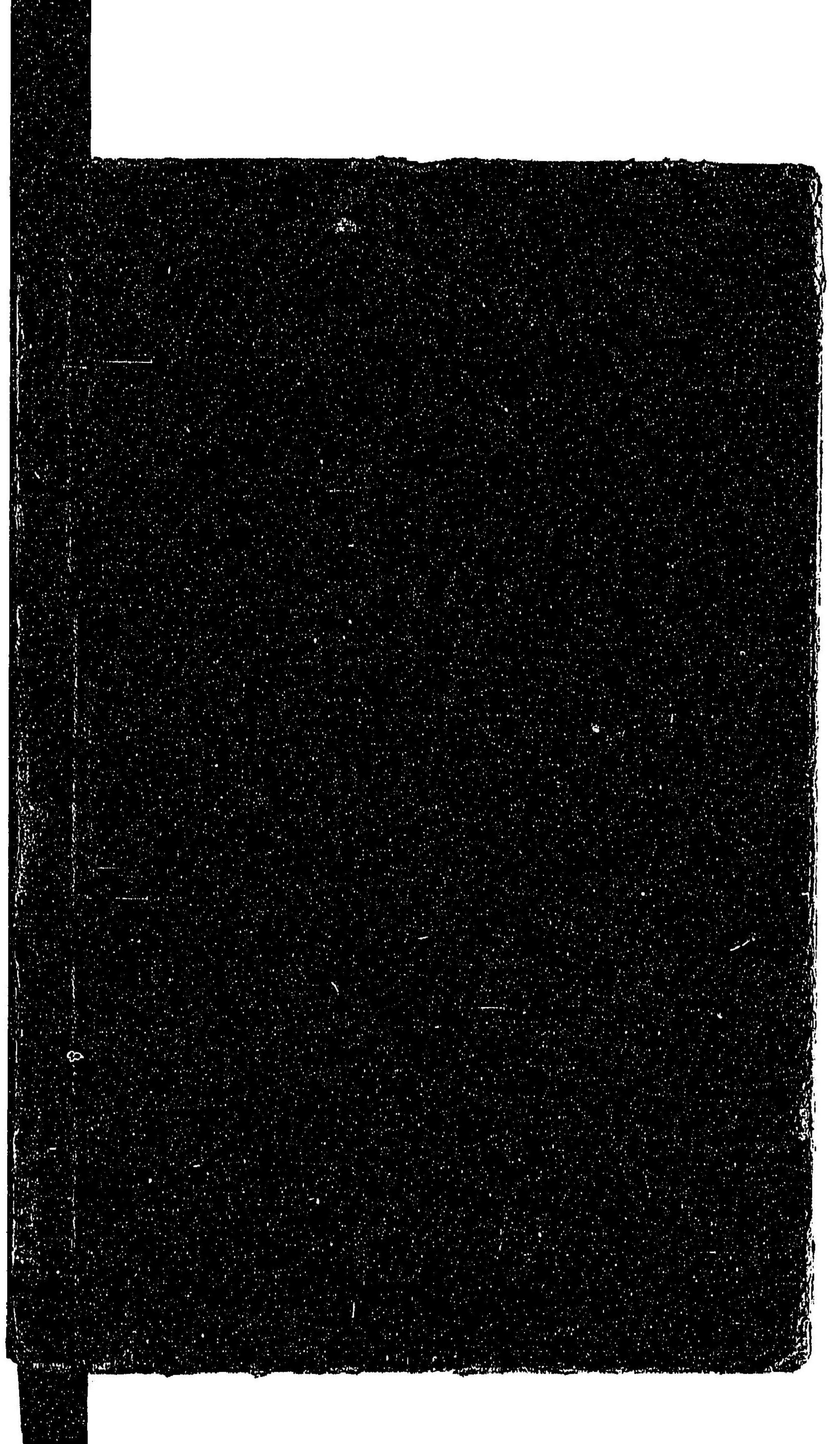
第一 時效

時效ニヨリテ抵當權カ消滅スルニハ特例カニツアリマス其ノ一ツハ抵當權ハ擔保物權ナルカ故ニ主タル債權カ消滅シタル時ハ抵當權カ消滅スルコトハ勿論テアリマス而シテ抵當權ノ消滅時効ハ民法第百六十七條第二項ノ規定ニ從ヒテ二十年テアリマス然ルニ第三百九十六條ニ於テハ抵當權ハ債務者及ヒ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ時効ニ因リテ消滅セスト規定シテアリマス其趣旨ハ抵當權ニ付テノミ消滅時効ノ完成ヲ認メスシテ寧ロ抵當權ノ消滅時効ヲ具備スルモ債權カ消滅セサル間ハ抵當權モ亦消滅セシメストシタノテアリマス其二ハ債務者又ハ抵當權設定者ニアラサルモノカ抵當不動産ニ付キテ取得時効ノ條件ヲ具備シタル占有ヲ爲シタルトキハ抵當權ハ之レニ因リテ消滅スル規定テアリマス(第三百九十七條)取得時効ハ所謂原始的取得ノ方法ニヨリテ何等ノ負擔ナキ所有權ヲ取得スルモノテアリマスツスレハ其不動産ニ付キテ抵當權存在スルモ取得時効ノ完成ト共ニ抵當權ノ消滅スヘキハ論ヲ俟タサル所テアリマス

第二 消滅

地上權又ハ永小作權ニ付キ抵當權ヲ設定シタル場合ニ地上權者又ハ永小作權者カ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニハ目的物ノ滅失ト同様ニ抵當權ハ當然ニ消滅セネハナリマセンカ併シナカラ斯クノ如クスル時ニハ自ラ地上權永小作權ヲ抵當ト爲シナカラ何時ニテモ自己ノ意思ニヨリテ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ルコトトナリマスルカ故ニ民法ハ第三百九十八條ニ於テ斯クノ如キ權利ノ拋棄ハ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得サルモノト致シテ居リマス換言スレハ抵當權者ニ對シテハ權利拋棄ノ效力ヲ生セナイノテアリマス乍併抵當權者以外ノ第三者ニ對シテハ權利拋棄ノ效力ヲ生スルコトハ勿論テアリマス
以エテ以テ債權擔保物權ノ説明ヲ終リマス

物權法第七章以下終



7
281

日本大學明治三十二年
法律學部第一學年講義錄
物權法

033995-000-8

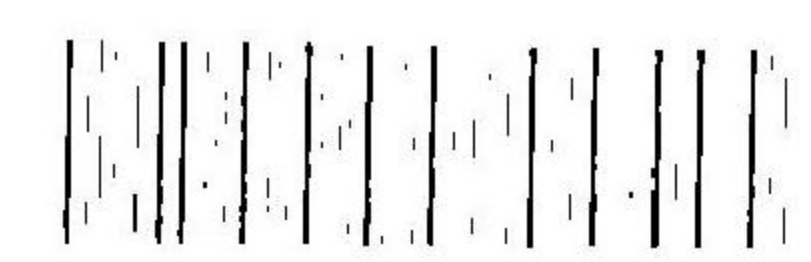
夕-281

物權法

飯島 喬平/述

M45?

BBL-0401



物權法